臥牛

大分県立竹田高等学校
関東同窓会
会報
第47号

発行者・会長　松良修二
編集者・委員長　田部修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町4384-2
電話　045-803-5677

http://www.geocities.jp/kantohtaketa/

春の幹事会協議事項報告

幹事長
井手　得郎
（昭41年卒）

桜前線も日本の美を感じさせながら列島を駆け抜け、あっという間に若葉の季節になりました。東日本大震災から早、三年。復興はまだまだ先のようですが、避難されている皆さんが一日も早く普通の生活に戻れるよう願っています。我が故郷、竹田は大水害から、ようやく、立ち直りの気配が感じられ、町中を歩くと白壁の家々の改築風景があちこちに見受けられるようになりました。

東京では、関東同窓会がもうすぐです。「ここに来ると故郷がある」。諸先輩たちが、築かれた竹田高校の伝統を守り、仲間との連帯感を高め、楽しい同窓会にしていきたいと考えています。ぜひ友達をお誘いのうえご参加ください。

＊同窓会の動き

平成26年3月15日、午前中に、アルカディア市ヶ谷で役員会を開催。会長より、同窓会の基本方針が示された後、昨年10月に東海大学校友会館で行われた拡大大分校友会の様子や、3月の勉強会の様子が報告された。この会では佐藤相談役の基調講演があり、大変好評であった。また、母校の修学旅行支援報告もあった。役員会に引き続き、春の定例幹事会を開催した。

一、平成二十五年度決算報告

平成25年度の総会収支、維持会費収支の説明があった。本年3月末までの収支実績が確定後、監事の監査を受け、総会で承認を得ることの報告があり、満場一致で承認された。

二、修学旅行研修支援

昨年12月11日～15日の日程で母校の2年生の東京修学旅行が行われた。関東同窓会も毎年、引率のお手伝いをしてきた。12日夜に、関東同窓会OBとの交流会を行った。まず、東京竹田市事務所長の神本豊秋さんの講演の後、関東同窓会の活動紹介や質疑応答があった。終了後、近くの居酒屋でなごやかな交歓会もあった。翌朝は、OB5人により企業訪問の引率を行い、農林水産省（加藤副会長）、JICA（井手幹事長）、ソニーエクスプローラサイエンス（後藤監事、後藤章一さん）、都庁（松良会長）が対応した。午後、生徒の皆さんは劇団四季「海」を観劇した。後日、生徒の皆さんから丁寧な感謝の色紙を頂いた。又、翌日の早稲田大学の研修に参加した母校の女子学生の制服姿が15日、13時のNHKニュースに映し出された。

当番幹事挨拶

三、第二十八回総会・懇親会開催

今年の総会は6月21日（土）に東京プリンスホテルのプロビデンスホールでの開催が決定された。催し物は、58年卒浜崎美紀さんを中心としたメンバーによる歌とピアノ演奏が行われる。また、売店では三笠野や荒城の月、干ししいたけ、焼き菓子の販売も予定されている。

四、会員の維持・拡充

現在、同窓会は1880人の皆さんに案内状を発送している。平成25年9月30日現在、維持会員数471人で、本年度は20人の増加であった。なお一層維持会員を増やすことが大きな課題となっている。今後は、学年幹事との連携を密にし、若手会員の拡充に力を注ぐ考えです。名簿の整理は順調に進んでいるが、年々、先細りとなる当番幹事の補強策として学年幹事のサポート部隊の創設や企画委員会の拡充提案があり、議論された。その他、各種委員会の充実、ホームページの活用、各校同窓会との連携なども今後検討していく。広報委員会副委員長に衛藤淳さん（昭51年卒）を指名して、メンバーの強化を図った。

竹田高校修学旅行特集

修学旅行支援

同窓会会長
松良　修二
（昭34年卒）

参加20名の生徒諸君とともに、都庁舎のある新宿西口に向かった。ラッシュ時の新宿駅は予想通り大勢の通勤客の渦だったが、人波を縫いつつ目指す都庁舎に予定通りの時間に無事到着。出迎えの若い女性職員二人のガイドにより、壮大な都庁舎のシステムとTVでよく見る白い議事堂の内部などの見学を行った。当日は、あいにく議会は開催されていなかったが、都庁の持つ機能の多様さと安全面での周到さが生徒に伝わったのではないかと思う。因みに都知事室は高層階のてっぺんにではなく、地上から消防車の梯子が届く階に設置されていた。昼食はみんなで都庁内の食堂で一般の職員とともにとったが、好評だった。唯一の問題は帰りだった。新宿から劇団四季のある新橋へ移動するためJR山手線に乗ったが、途中、品川駅と田町駅の間に不審物があり、50分程度電車がストップした。しかし、生徒諸君の日頃の行いが良かったためか、ぎりぎりで、劇団四季の開演時刻に間に合った。新橋駅から会場までの数百メートルを、私を除く生徒全員が人波をかき分け、死にもの狂いでダッシュしたことは言うまでもない。皆さん、お疲れさまでした。

引率者：松良修二

企業訪問先、日本パーカライジングにて記念撮影

見学は貴重なお話を直接聞くことができて大変為になりました。
初めて聞くことが多くて驚きましたし、
僕　たちの質問にも詳しく、わかりやすく答えてくれたので、やくにたつ時間でありがとうございます。
証券取引所では、企業のおこし方や株取引の仕組みなどを学ぶことができてよかったです。学んだことをしっかり将来に活かしていきたいです。
吉田 玄武郎

企業研修では貴重なお話しをしていただきありがとうございました。修学旅行では初めての経験でしたが、特に企業研修で学んだことは、自分の将来を考える上でためになることばかりでした。パーカライジングは世界的にみても社会に大きく貢献していると分かりました。そのような会社に至るまでいたっていらっしゃるので、その為に恥じないよう、努力し続けていきたいと思います。本当にありがとうございました。
浦田 彩華

企業研修では大変お世話になりました。証券取引所では、将来職業に関係してくる知らない様々な仕組みなどを学ぶことができ、日本パーカライジングでは、OBの方々を自分達の未来に活かすことができる下話が聞けたので、これからどう生きていけばいいかを考えるきっかけとなりました。　ありがとうございました。
宮川 遼太

見学は大変お世話になりました。
東証では、普段経験できないことができたので、とてもいい思い出になりました。パーカライジングでは、普段気がつかないところにも、日本の細かい技術が使われているんだなとととても感心しました。
本当にありがとうございました
義平 樹

修学旅行での思い出の一つとして、企業研修が印象強いです。
「パーカライジングと兵器」を読んでパーカライジングは、すごい歴史があるかなと思いました。原爆とのつながりがあってもう一度、工場に訪問させていただきとても良い経験になりました。
本当にありがとうございました。
後藤 秋

修学旅行の様は大変ためになりました。証券取引所では、ふだんテレビで見る場所を実際に見ることができてよかったです。
仕事に対して関心を持つことができました。パーカライジングでは、職業の体験をしゃべることができとても感心しました。僕や本当に優しくしていただいて、ありがとうございました。
田中

日本パーカライジングの皆様へ

見学旅行では、様々なお話を聞かせていただいて、ありがとうございました。今回、皆さんに聞かせていただいたお話の中で自分に役立つものがたくさん見つかりました。私は、将来や仕事をすることに興味をもつように成る。今、英語の勉強にかけ入れて取り組んでいます。いつか皆さんのように、社会に大きく貢献できるようなことができればいいなと思っています。これからも竹田高校生としての誇りをもって、様々なことに取り組んでいきます。本当にありがとうございました。
坂井 明璃

企業研修の際は大変お世話になりました。最初に訪問した証券取引所では、普段テレビでしか見ることの出来ない場所や、私たちにはあまり馴染みのない様々な取引の仕組みを学ぶことができて、将来の為にとても良い経験となりました。
日本パーカライジングでは、現場方の話や、時代の話や、仕事などは自分たちにとって良い経験になりました。
ありがとうございました。
遠藤 [illegible]

見学旅行の際は、とても貴重なお話をしていただき、ありがとうございました。証券取引所では、よくテレビで見る大きな画面を直接見たり、株の変動を見ることができ、すごくびっくりしました。パーカライジングでは、先輩方のお話を聞き、自分の将来について考えることができました。今回の企業研修での経験を、今後の生活に活かしていきたいと思います。
ありがとうございました。
長野 [illegible]

東京証券取引所正面玄関にて

東京証券取引所のメインボードに学校名紹介

母校の新校長紹介

後藤 輝美校長

●プロフィール

朝地町出身、昭和52年3月竹田高校卒業。

教諭として竹田高校（9年）・大分舞鶴高校（10年）・臼杵高校（3年）などの勤務を経て森高校教頭（2年）、日田支援学校校長（2年）、平成26年度より竹田高校校長として着任。

定時制や農業・工業高校、さらには行政経験（知事部局）もあり幅広く経験を積まれ、やる気に満ちておられます。

本田博敬（昭40年卒）

第28回 竹田高校関東同窓会 総会と懇親会のご案内

▼当番幹事　昭和四十八年卒、五十八年卒

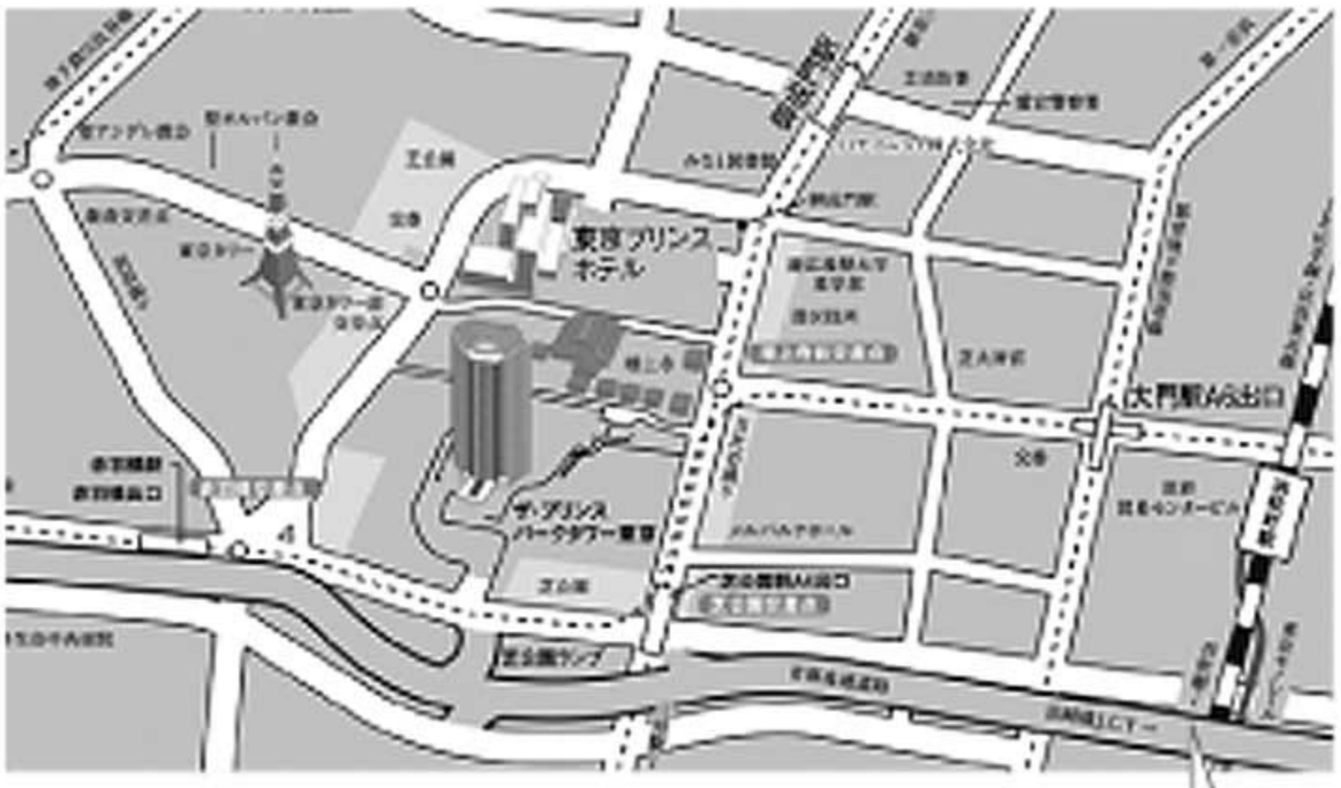
日時　平成26年6月21日（土曜日）

場所　東京プリンスホテル 2階 プロビデンスホール
東京都港区芝公園3－3－1
TEL：03－3432－1111

総会　12時00分～（11時00分から受付）

懇親会　12時40分～15時30分

会費　8、000円



▶JR線・東京モノレール浜松町駅から徒歩10分。
▶都営地下鉄三田線御成門駅(A1)から徒歩1分。
▶都営浅草線大江戸線大門駅(A6)から徒歩7分。

毎時15分発　無料シャトルバス運航しています(定員41名)

浜松町駅[浜松町バスターミナル5番のりば]➡東京プリンスホテル

昨年度懇親会のテーマは「私達の故郷竹田市が水害から立ち直るための復興支援」でした。当番幹事の昭和五十七年卒の先輩の方々は、一昨年の八月に竹田高校卒業三十周年の同窓会で、被害状況を目の当たりにされ故郷に暮らす方達の悲しみ、苦しみに耐え元気な竹田を取り戻すための一つとなればと思い、同窓会総会・懇親会のテーマを決定されたと聞きました。

また、故郷竹田市では、被害の悲しみ、苦しみを感じ生活をされている方々がおられます。私達も陰ながらではありますが何か応援ができることはないかと思い、懇親会を開催させていただきます。

さて、今年度のテーマは、復興支援の思いを引き継ぎながら、多くの参加者の方々に故郷竹田市を身近に感じていただきたく「故郷竹田の香りをお届けします」です。

今、竹田市では全国に向けて市のアピールを多く行っています。その一つをご紹介させていただきます。題して「ミステリアス！竹田キリシタン」十七回シリーズものです。第一回が「謎が謎を呼ぶ聖ヤコブ石像」、第八回「岡藩特有の十字家紋のルーツを探る」・第十五回「竹田と長崎を結ぶキリシタンの絆」全てのシリーズは書くことができませんので懇親会会場にて、シリーズ連載誌をご用意いたしますのでお読みいただければと思います。

また、故郷竹田市＝滝廉太郎を感じていただきたく、今年は、緒方町出身竹田高校卒業、武蔵野音楽大学を卒業されました。浜鳴美紀さんをお呼びしております。歌声を聴いていただき故郷竹田市＝滝廉太郎を全身で感じていただきます。

更に、竹田市の特産品、竹田市の取り組みをパンフレットをご用意しご紹介させていただきます。水害から立ち直る故郷と竹田高校の卒業生として今、私達にできることにご協力いただけますよう、是非ともご参加願います。私達五十八年卒業当番幹事も、皆さまに故郷竹田の香りを感じていただけますよう精一杯頑張りますので宜しくお願いいたします。

関東同窓会の襷を繋ぎ続けます。

森　純洋（昭58年卒）

クラス会・同期会

平成25年度竹田会総会

田部　修士（昭42年卒）

平成25年度竹田会総会・懇親会が、11月8日私学会館アルカディア市ヶ谷において開催された。午後6時、志生野アナウンサーの開会宣言に続き、全員が起立し物故者への黙とうを捧げた。

まず辻会長が「竹田会は開催62回と非常に歴史のある会で、最近は、昨年迄カリスマ的な里見会長が名会長として盛り上げてこられました。心から敬服し感謝申し上げます。後任の会長に御指名を頂きました。光栄であると同時にどれだけお役に立てるか心もとない点もありますが、先輩の方々のご支援、ご指導や、会員の皆様のご協力を頂きながら、この素晴らしい会を引き続き盛り上げていくよう全力を尽くしていきたいと思います。よろしくお願い致します。」と挨拶をされた。

辻新会長と里見前会長

続いて来賓として、桐朋学園の松井先生と先生のご指導の下で各地で音楽劇を開催されている同学園の卒業生が紹介された。松井先生は、唱歌を広げる活動をされており、福島でも復興支援として音楽劇を開催され、昨年は竹田市の水害支援として、音楽劇「瀧廉太郎物語」を大学で開催され、売上金からご寄付を頂いたそうです。

今回は、柴田智絵理さんが1～1時間半ほどの音楽劇を竹田会のために15分に特別編集された音楽劇が、10人の仲間とともに披露された。

「昨夜夢を見ました。今日は具合が良いので作曲をします。もうすぐ24になります。自分はもうすぐ死ぬが、お母さん生んでくれてありがとう。僕は待って生まれた使命に出会うことが出来ました。音楽家になります…」

来賓紹介として壇上に上がられた首藤市長は「関東同窓会、竹田会その他、年に3～4回上京しますが、今回の瀧廉太郎物語、感動しました。是非竹田でも公演して頂きたい。竹田市は復興に時間がかかっていますが、期待に応えられるように頑張ります。皆様のご支援に感謝します。本日は、赤坂中央ビルの7階で東京竹田オフィスの開所式を行いました。責任者は神本君で、スピード感のある若者です。是非多くの方にご利用頂きたい。」と挨拶された。

毎回熱いご挨拶をされる首藤市長

続いて、甲斐元商工会議所会頭が登壇され、佐藤新会頭、後藤、板井両副会頭始め地元から上京された面々をご紹介され、乾杯のご発声をされた。

懇談会では、竹田市から上京されたかぼす娘（年齢不詳）のメンバーが登場して〝かぼす蜂蜜ミルク〟の作り方が披露され、多くの出席者にふるまわれた。

歓談に移り、途中で来賓の警察研修社代表・中島啓さんが紹介され、「佐久間盛正と仇敵である中川家に嫁いだ虎姫にまつわる親子の愛と絆の物語を執筆中で近い内にPHPから出版予定」との報告があった。また、川端康成記念館の水原園博さんは、「竹田を知ってすっかり竹田市のファンになりました。4年後ですが東京駅でコレクター展が開かれる予定ですので楽しみにして頂きたい。」

以前に、竹田高校で剣道も学ばれていたアリソンビール・オクスフォード大学日本代表は、「毎年竹田会の案内を頂いてありがとう。竹田が大好きです。」

青山学院教授・島越けい子さんは「竹田とは不思議な縁を感じる。渋谷の百軒棚に最後の中川久成候が住まわれていたことを5年前に知った。その後、竹田市と縁あって2年前に竹田に行きました。」と挨拶をされた。

くじ引きでは、最後に三浦さんが〝楽天イーグルスの初優勝記念の帽子〟をゲットされ興奮、司会者に促され早速皆さんに披露された。

やがて閉会の時間が迫り、桐朋学園の遠藤さんのピアノに合わせて、瀧廉太郎音楽クコンクールの優勝者・坂本さんを囲み「花」、「荒城の月」、「美しき竹田の歌」を全員で合唱した。松井先生にも特別に「荒城の月」の熱唱を聴かせて頂いた。

『こころの里山東京教室』開校のご案内

豊かな自然と豊富な温泉資源に恵まれた大分県竹田市は、歴史と文化を継承しつつ、現代を生きる詩歌の里を目指し、短歌を通した竹田の魅力発信に取り組んでいるところです。

また、平成25年度には東京赤坂に竹田市の拠点「東京オフィス」を開設し、竹田市に縁のある方、竹田市に興味のある方々が集う場を設け、都会と竹田とをつなぐ場の創出を図っているところです。

そこで、平成26年度より、竹田市が東京に出張し、人間らしく豊かに流れる時間、「こころの里山」を東京に創る文化講座を開催します。4月からは竹田の里山で育った歌人川野里子さんによる、連続12回の短歌講座を開講します。

詳細及び申込書については、以下の竹田市公式ホームページに添付のチラシをご参照ください。皆様のご参加をお待ち申し上げております。

■竹田市公式HP
http://www.city.taketa.oita.jp/topics/?id=921

■お問い合わせ
竹田市役所企画情報課文化・地域振興室
Tel0974（63）1111（内線200）

28会卒業六〇周年・傘寿記念全国大会

工藤　裕一（昭28年卒）

平成二十五年十月二十二日、母校と久住高原にて、28会卒後六〇年、傘寿記念大会が盛大に開催された。東西はもとより、海の向こうアメリカからも馳せ参じた同級生、男女あわせて一一二名に達し、みんなが感激と慶びの涌の中にはまった。

想えば戦後復興しだしの昭和二十五年四月から二十八年三月までの三年、青春の日々を同じ処に机を並べた道に始まる。六〇年の歳月、二万二千日、五三万時間に至る膨大な人生航路を夫々に、異なった旅路を辿りながら、今この日、この時、この処にふたたび集められ、ともに傘寿の慶びを分かち合える幸せは他に代えるものはなかった。

新装校舎の大教室で学校長、同窓会長から歓迎を受けた後、当時の学校生活のひとコマを映した「思い出の写真館」にはみんな「オー」「アー」と狂喜、歓喜の連発であった。

校内見学の後、孫世代の在校生らに見送られて校門を後にした二台のバスはゆっくりと竹田の街を通り抜け、しばらくの間に城原の丘の道に出る。辺りが拓け、祖母、傾山を背に左手に阿蘇連山が微笑み、前に久住、大船の山裾が両手をひろげて母のように迎えてくれる。すそ野に広がるススキの波、高原を渡る風。

六〇年前のタイムカプセルが開けられて、端なくも胸がグッーと詰まり、眼鏡の内側の涙嚢が膨らむ。

フルサトノ　ヤマニムカイテ　ユウコトナシ　フルサトノヤマハ　アリガタキカナ

高原荘での各種イベント、水琴館の作品展、久住カントリーでのゴルフ大会。高原のバス遠足などなど、盛りだくさんな企画メニューに二日間は瞬く間に過ぎてしまった。この陰には細密周到、準備万端、献身的努力を惜しまなかった郷土在住の多くの友がいたことを忘れてはならない。

深甚なる感謝を申し上げたい。

なお、節目の記念集会にあたり、些少ではあるが母校に「液晶掲示板」を寄付したことを追記する。

関東二六会

当番幹事　高松　良雄（昭27年卒）
浜口　鈴子（昭27年卒）
牛島　健一（昭27年卒）

毎年恒例の竹田高校関東二六会を、平成二十五年十一月二十日渋谷の人気スポット、ヒカリエビルの、軽井沢に本店を置く「酢重ダイニング」で開催した。八十路に入っての会にも拘わらず、阿南惟正二六会会長を はじめ、同期の前同窓会会長の長吉泉氏、竹田会会長の里見菊雄氏、アナウンサー界の雄、志生野温夫氏等々総勢二十七名が集い、会は四時間にも及び、八十歳超とは思えぬ飲みっぷり、健啖振りで、竹高健児老いたりと言え大いに盛り上がり、これぞ元気の秘訣と感じ入った次第である。昨二十四年四月久住高原荘で「傘寿会」と銘打って実施した二六会全国大会に続き、二〇二〇年の東京オリンピック迄元気に頑張り「五輪観戦米寿会」を開催することを誓い、開発著しい若者の街渋谷にそれぞれ別れを告げました。

尚、会初頭、今年黄泉に旅立った、小代章氏、白土恒子さんの冥福を祈る。

早春に誘われ桜と親睦の花が咲く

3月27日、ちらほらと桜が咲き始めた千葉カントリークラブ（千葉県野田市）で臥牛会ゴルフコンペが、10名の参加を得て行われました。コンペの趣旨が同窓生相互の親睦を図る事と理解している参加者の平均グロスは、102。レベルは、それ程高くはない。それよりも、少年期を共に過ごした隣家の先輩と久しぶりに再会できたこと、自分の生まれた年に高校卒業した方とプレイしたこと、高校の今と今後について意見交換した等、親睦のレベルはかなり高い。次回は6月初旬の予定です。参加希望者は高橋まで（Tel：03－3275－3271）。

特別寄稿

広瀬武夫を加納治五郎に紹介した山縣小太郎

竹田市岡の里事業実行委員会
会長　中村　睦雄

山縣小太郎

武夫に柔道を勧めた山縣小太郎

山縣小太郎は旧岡藩士で、はやくから尊皇攘夷の志をもち、後に新政権のもとで活躍しました。職を辞したあとは、現竹田久住町白丹で暮らし明治二十八年に死去されました。白丹の稲葉公園には顕彰碑があります。

天保元年（一八三〇）現竹田市竹田茶屋の辻で生まれ、廣瀬武夫の父重武とともに小河一敏に学びました。家老中川橘山を首領とする岡藩勤皇党として、はやくからご尊皇攘夷の志をもち、安政八年（一八六一）に脱藩して熊本・長崎・江戸を数年滞在。各藩の志士と交わり辛酸をなめ、宇和島大隆寺で座禅練磨すること三年、京都に上りました。

この時期、安政の大獄（一八五八）に続き桜田門の変があり、山縣小太郎は水戸に赴き水戸烈公に仕えて志を達せんとしましたが烈公の死にあい、その後数年やがて慶応三年（一八六七）薩長連合して討幕の密勅を奉じました。天下の形勢切迫時、鷲尾隆聚侍従（陸援隊）が紀州を押さえるため高野山で勤皇幕兵、京阪の官軍に呼応し集まる者三千人、山縣小太郎は勇躍してこれに馳せ参じました。陸援隊名簿にも「豊後　山形小太郎」とあります。

廣瀬重武の同志は、孝明天皇より叡感状下賜の光栄に浴した山河一敏はじめ十七烈士の他、尚多数の殉難志士やその他別行動をとった同志もあったようです。ここに述べる山縣小太郎もその一人でした。重武より六年年長だが、廣瀬家とは親交があり、武夫にとってはもっとも縁故深き人でした。

幕府大政奉還の後、小太郎は戊辰の役には監察使・三条実美の部下（軍曹）として後に鷲尾総督付を命じられました。しばしば急命を奉じて各地に出入使し、会津戦争では功を挙げ、鶴ヶ城の城明け渡しに中村半次郎（薩軍の将・桐野利秋）とともに政府軍代表として立会い城主の松平容保父子を妙光寺まで護送するという大任を果たしました。その功績で永世五十石を賜っています。

維新後は、新政府に出任し大宮県知事、清和県知事、海軍一等属海軍省赤羽造兵廠高官として海軍省の立ち上げに力を尽くしました。

武夫・海軍・講道館と山縣小太郎

武夫の父重武より、小太郎は長男勝比古の教育について意見を求められると、世界の大勢より進めて西洋諸国の東洋侵略を説き、いったん植民地となった諸国の悲惨な実状を話し海国日本の独立を強調しました。これが維新と防衛には海軍力の大振張強化と、これにあたる優秀なる海事軍人育成の急務を説き「自分のひとり息子、太朗も海軍志望だ。その子たちも将来、海軍にいれないか」「では頼む」ということになったといいます。

学究肌の小太郎は、朝三時に起床、しばらく読書してから役所に向かう、という姿勢を崩しませんでした。東京本所松井町に住んでいた盟友小太郎に、父重武は武夫の兄である勝比古同様、武夫も預けました。

明治十六年（一八八三）兄の勝比古が海軍兵学校入学のため小太郎宅を出ると、その後を追って武夫は小太郎宅に寄宿し、ここから兵学校予備校「致玉社」と、ついで講道館にも小太郎の勧めで通いはじめました。

この講道館は、小太郎宅近くにあったこともありますが、館長の嘉納治五郎は（紀州の南郷茂光と小太郎が知己だったことがきっかけ）柔道の草分け、東京高等師範学校（現・筑波大学）の校長などをつとめた偉大なる教育者でもありました。

小太郎は「健全なる血肉は、健全なる精神をもってこそ滋養す」の考えをもち、武夫に当時評判の永昌寺で開かれた道場講道館で初めて目にした柔道は、武夫にとって鮮烈であり、たちまち「柔よく剛を制す」魅力につかれました。海軍兵学校入試を不覚にも不合格、気をとりなおして再試験に合格し、その折も練習を欠かすことはなかったといいます。

岡城桜まつり＆三佐若連祭り

平成26年4月6日（日）、「第44回岡城桜まつり」が無事終了しました。城主に有名人が来ないと集客が今少しです。又、岡藩時代の飛び地であります現大分市の三佐のお祭りが、毎年4月28、29日に開催され、豪華絢爛な山車が見事です。お時間のある方は一度ご覧になると感動ものです。

（昭42年卒　桑島輝茂）

ふるさと名所紀行

晩年を荻の地で過ごした 白洲次郎の父〝白洲文平〟

荻町史談会　会長　後藤　文廣

竹田市では白洲文平が晩年を過ごした荻村に説明文を掲げる計画があり、竹田市役所文化財課・佐伯さんより、その説明文が届きましたのでご紹介します。

1869（明治2）年～1935年（昭和10年10月23日没）

兵庫県三田市生まれ。父は白洲退蔵、妻芳子、白洲次郎は次男である。

築地大学校（現：明治学院大学）卒業後、ハーバード大学、ボン大学に留学。帰国後は三井銀行や大阪紡績会社（現：東洋紡績）に勤めるが中途で退社。その後、神戸市栄町に貿易会社白洲商会を創業し絹貿易により発展して巨万の富を築いた。豪放ながら傲慢な性格で、周囲からは「白洲將軍」と畏れられた。

建築が趣味で多くの邸宅を建てそれらは「白洲屋敷」と呼ばれていた。白洲商会は1928（昭和3）年に昭和の金融恐慌により倒産。その後阿蘇山麓の大分県直入郡荻村に洋館を建てて移り住み、この地で生涯を終えた。

昭和26年9月号の「文藝春秋」に次男白洲次郎が書いた「日曜日の食卓にて」の中に父親文平について書いている。

「建築道楽で、家ばかり建ててた。道楽はたくさんあって、ほかの、あまり言ひたくない道楽もあったが、そして、いつでも建てる家は日本館にきまってゐる。ぼくのおやぢは外国育ちの男だ。そこで西洋館は靴を脱がないでもいいから西洋館がいいぢやないかと言ったら、外国ぢや道がとてもきれいだ。だから靴のまま上ったって汚くない。だけど日本人みたいな、こんな汚い道を歩いて来て、そのまま上られたたまらない、だから日本館がいいと、言ふ。ところが、そのおやぢは靴履汚して畳の上を歩くのだ。そして人が別いぢやないですかと言ふと、俺はほだと言って澄ましている。これがのんとの惚若無人というものだ。僕育おやぢは、子どものときから外国境ぢで、ほんとの意味のお酒落だった。晩年は九州の大分と熊本の国に、百姓をして独りで住んでゐたどもっとも女中なんかはいたけれ子も、東京に来るときは、木綿の刺の紺の股引をはいて、上にはツイードの洋服を着て、荷物は全部風呂敷に農くときの網にいれて、それで東京は来て平気で歩いている。そういう人だった。」

そうしたある日のこと、近所の家のおばさんが来てみると、ベッドの中で死んでおり、ベッドの下には自分で長身の体に合わせて作ったと思われる特大の棺桶が用意されており、ここが終焉の地となった。

文平氏が亡くなった翌年に遺族から親交のあった向井家が家屋を譲り受けた。当時としては洋館は大変珍しく、大きな窓や暖炉、川の水をポンプでくみ上げ生活用水にする浄化槽を備えていた。薪で沸かした湯が流れ込み、温泉のようだったという。ほとんどがじゅうたんを敷き詰めた洋室で調度品をそろえ、水洗トイレも完備されていた。

5頭の馬と狩猟用に数匹の猟犬も飼っていた。息子の次郎氏に通じる人生哲学は竹田へ移住の後も発揮され、養蚕業を興して生糸の生産も手掛けていた。

向井氏所有時の屋敷

こぼれ話　出光の壺

百田尚樹さんの「海賊とよばれた男」は実に多くの人に読まれましたが、出光と大分とは深いかかわりがあったようです。

出光家のご先祖は宇佐八幡の宮司だったようですが、小説の中でも「…二十三銀行（現在の大分銀行）の林清治支店長（当時門司支店長）が、（当時出光商会への）肩代わり融資を決めてくれ、佐三は、ぎりぎりで窮地を脱します。…」というくだりがあります。

大分銀行への恩義を深く感じる出光佐三は、その後、出光興産が上場の際に、大分銀行門司支店へ〝感謝状と記念の壺〟を贈呈されたそうで、その壺は現在、大分銀行の役員室に飾られていると聞きました。

ご　案　内

東海大分県人会40周年記念総会

日時　平成26年7月5日(土)　11時受付・12時開会
場所　名古屋国際ホテル（名古屋市中区錦3-23-3）
会費　男性：8,000円／女性：5,000円（予定）
　　中高生：2,000円

当日は、大分県にゆかりのある方、300名程度を予定。同時に、地域テーブル（竹田会など）同窓会テーブル等設置予定。

豊後竹田会〈県人会同日開催〉

日時　同日16時30分～　会費　5,000円（予定）
場所　未定

竹田市市長または副市長出席予定。大阪豊後竹田会会員参加、他全国竹田会メンバー、80名程度予定。

発起人：東海大分県人会 会長 山本英次（昭42年卒）
連絡先：takeiteisy@docomo.ne.jp
　　または、☎090-4868-8918

訃　報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

古沢　金幸　様（昭29年卒）　平成25年5月19日　没
首藤　恵　様（昭29年卒）　平成25年7月21日　没
真崎　龍介　様（昭20年卒）　平成25年7月　没
佐藤　治司　様（昭35年卒）　平成25年9月20日　没
津田　紀子　様（昭35年卒）　平成26年2月　没
片山　研　様（昭33年卒）　平成26年4月7日　没

※事務局へ連絡を頂いた方々を掲載させて頂きました。

竹田市出身・歌手紹介

響　あゆみ

「一本の櫻の木」

この物語は実話で、TVでも放映されました。山口県岩国市向畑集落。昭和初期には約300人が暮らしたといわれる山村も現在人口はひとり。92歳のおばあちゃんがひとり暮らす山里には樹齢800年といわれる一本の櫻の木があり、毎年春になると……。

歌手プロフィール▼

響　あゆみ（本名：吉田　美穂）出身：大分県竹田市（1974年黒川産婦人科で生まれる）

竹田小～竹田中を卒業、平成2年、16歳で歌手を志し懐に7万円持って上京。作詞家　結城忍氏に師事。クラウンレコード創立30周年記念大型新人歌手としてデビュー、テレビ朝日「サワちゃんと歌仲間」等多数出演。病身の母の看病で数年休業の後歌手として復活。ニューアルバム「一本の櫻の木」発売。6月に「竹田の春」、「荒城の月」を出す予定。現在故郷への恩返しを願い竹田でのコンサートを心に誓い活動を続けている。

「一本の櫻の木」

作詞・作曲　都丸　悠
編曲　町屋雄三

花に嵐の例えなら
人生は悲しみだけですか
岩国から川を越え　山並に県道を抜ける
林の奥に向畑集落
静けさが出迎えるこの春
その昔300の暮らし灯があった
この里は今…
去る人もいた　捨てる人もいた
またひとつ灯が消えた
八九歳の老婆ひとりが
ここでまだ　生きている
幸か不幸か　幸せの形なんて
十人十色違うもので
都会暮らし四角い僕の空には
聞こえない歌があるのかな

長い歴史八〇〇年間
風雪に耐えてなお今も
向畑集落を見守る　神様がいる
木枯らし止むと悠々
鮮やかに花を咲かせる
神様は林道に立つ　一木の櫻の木
今は昔の　木の下の畑
荒れ果てた里にひとり
雨の降る日も風の吹く日も
この里の土の上に立ち

栄枯盛衰　時代は流れて
文明社会の影ひとつ
喜怒哀楽　消えかけた灯
十年先も　咲き染めて
さくら　櫻とあなたの人生
高らかにささやかに　満ち足りていて
幸か不幸か　幸せの形なんて
知らない誰かが決めるものじゃない

連絡先▼響あゆみ音楽事務所
〒160-0022　新宿区新宿4-1-22-702号
http://hibiki-ayumi.com
（昭42年卒　田部修士）

▼辻野先生ご逝去▲

3月16日、大分学講座等を通じて竹田のPRをしていただきました辻野功先生がご逝去されました。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

詩歌文芸

紫木蓮
活ければ競う　二輪かな
（昭11年卒　佐藤ナルミ）

若人の
白き手足や　樹蔭暑
（昭11年卒　佐藤ナルミ）

編集後記

会員の皆様からの投稿をお待ちしています。

ご多忙の場合は、写真と添え書きだけでも受け付けます。

同期会、海外旅行便り、故郷での新しい発見、詩歌、また仲間の活躍など多数の皆様方の情報を期待しております。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

●連絡先●
〒103-0027
東京都中央区日本橋1-15-1
日本パーカライジング
（広報委員長）田部　修士　宛
TEL：03-3278-4350
FAX：03-3278-4314
mail to：stanabe@parker.co.jp